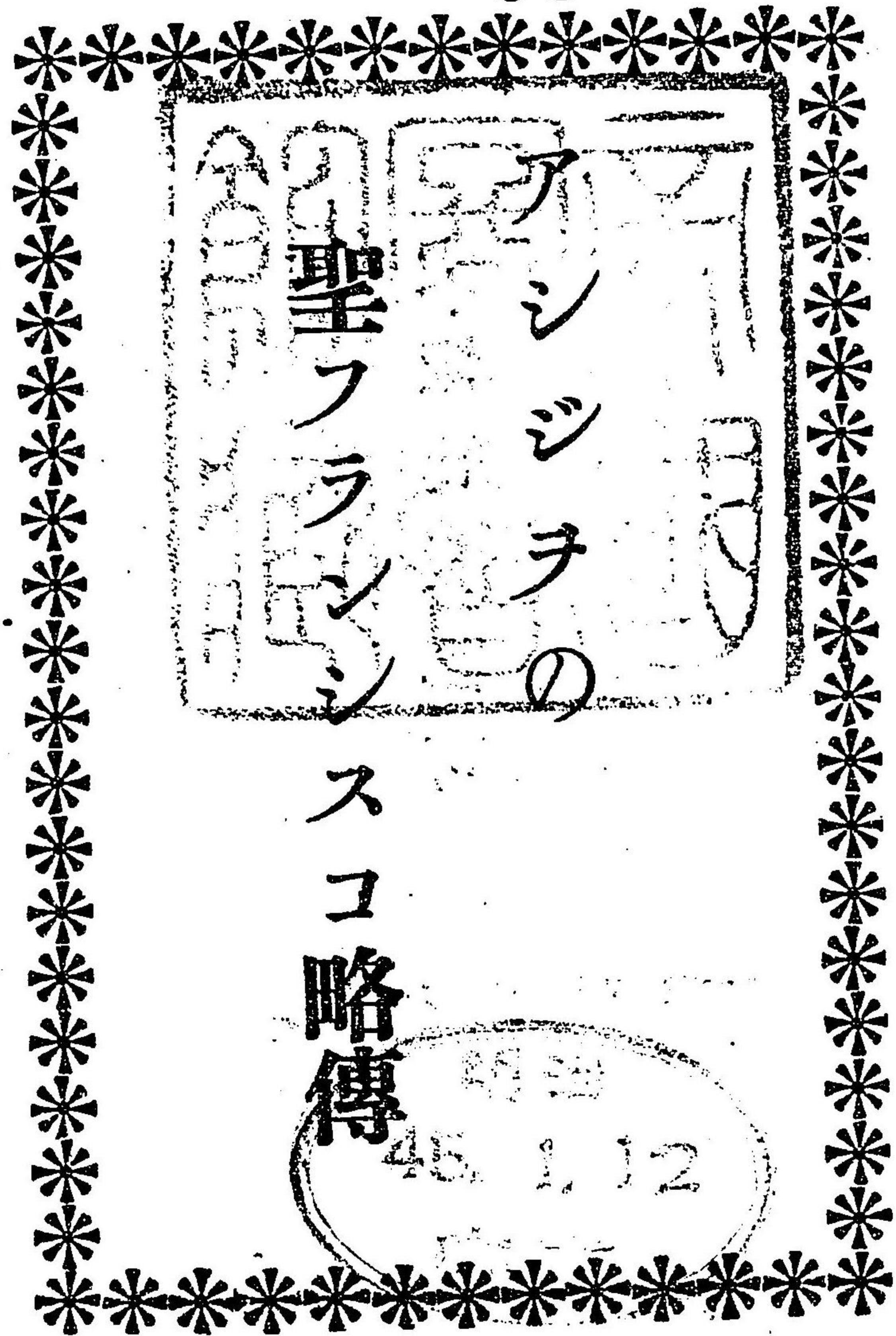


特 62  
89



ア  
シ  
ジ  
チ  
の

聖  
フ  
ラ  
ン  
シ  
ス  
コ  
略  
傳

45. 1. 12

[Faint, illegible text or markings on the right page]





オシラフの聖人コシ

大阪司教認可



緒言

(1) 聖人の傳紀を熟讀するならば、如何に信仰なき者でも、  
堅き信念と、無私無慾と、高尚な精神とを懷いて、自分の  
目的に進むといふ利益を得。基督教信者に取つても、聖人  
等は斯る一般のもの、即ち道理にのみ従ふ計でなく、其  
上に基督教信者の特有なる超性的の徳、聖主が吾等に教へ、  
且聖き御生活の中に吾等に鑑として示して下さつた所の  
超性的の徳を、極端にまでも修められたといふ事を曉り得  
るであらう。



アジジオの聖フランシスコは、聖人等の中に於ても特に注意を惹き易く、且如何なる無信仰者にも感動を興ふる程の柔和と、人の心を惹くの德行を持つて居られた方である。又三百年前此日本に於て、始めて天主公教を弘める爲に努めし宣教師の多くは、此聖人の創立せられたフランシスコ會の子弟であり、尙其當時の日本人の中にも、此會の各階級に入り、信仰の爲に殉教した者が多かつたのである、それ故此聖人の傳は讀者に一層多大の興味と利益を興へるであらう。

尙また此フランシスコ會の修道士等は、今より五年以前再び此日本に渡來せられ、今現に北海道に於て聖師在世の時と變らぬ生活を爲し、或者は司祭となつて直接布教傳道に従事し、或者は内に居て祈祭、克己、苦業に従事して居る、そして俱に全一規則を遵奉し、共同生活を爲し、以て自分等が、完徳に達せんと努め勵みつゝ、周圍の人々を、眞の信仰の光の方に導かんと力めて居られるのである。

此フランシスコ聖人の傳を刊行した理由は、一は未信者に對して、斯の如き聖人を養成するの宗教を能く研究せん



(4)

どの希望を起させ、一は公教信徒に對して、歩むべき道を教へ、一層完全に主に倣はんどの希望を懐かせ、且心の底に天主の御招きを曉つて、此會に入らんと望む者の爲め、参考の資に供せんが爲に他ならぬのである。若し讀者の心の裏に天主の聖寵の囁きを聞くなれば、心す聖人となられた多くの人々の跡を踐みたいといふ望みが起るであらう。

千九百十一年十二月八日  
聖母無原罪の祝日に當つて

譯者識

### アシジオの聖フランシスコ

聖フランシスコは十二世紀の末葉に、恰度千八百八十二年に、伊太利のアシジオと云ふ市でお産れになつたので御座います。熾天使と申しますのは此の聖人の徳を頌めた名なので御座います。殊更にアシジオの聖フランシスコと申しますのは、其の後聖人がお産れになりました市の名を取つたので御座います。

お父さんと申しますのは可成財産のある商人で御座います。

(1)



して、名をペトロベルナルドヌと申しました。そしてお母さんと申しますのは佛蘭西の名あるプールモン家のお生れで御座いまして、名をピカと申しました。

お母さんのピカが聖人をお産みになる時不思議な出来事が起りました。と申しますのは、お母さんが聖人をお産みになる時、急に御容態が變りまして、もう一命さへ危ないといふやうになつたもので御座いますから、誰れも彼れも歎かれました。その時威嚴のある一人の旅人が施與を受けやうと思つて門へ來られました。そして其の旅人は施與を

お受けになりますと、若し彼のお母さんを厩へ伴れて行つて、少しばかりの藁の上に寝かせるなら、なんの心配は無い、お母さんは直ぐ安易と子を産むよ。それは神さまの御意志なんだからね、と申しました。

旅人の其の言葉は普の人間の言葉とは如何しても思はれませんでしたものですから、お母さんは直ぐ厩にお運ばれになりました。すると、ほんとうに何の苦も無くやすくと冢子をお産みなさいました。其の冢子さんこそ私が今お話しいたしますアシシオの聖フランシスコ其の人なんで御



座まいます。

聖せいフランシスコは間まも無なく洗せん禮れいをお受うけになりました。洗せん禮れいの秘ひ蹟せきをお授さづかりになります時とき、前まの旅たび人びとが再また度たび訪たづねて來こられましたして聖せい人じんの代だい父ふとおなりになりました。聖せい人じんの最初さいしよのお名なはヨハネと云いふので御ご座ざいましたたが後のちにお父ちちさんがフランシスコとお改かへになつたので御ご座ざいます。

厩うまやの中うち、土つちの上うへ、藁わらを褥しきとして生うまれた聖せいフランシスコは全まく耶よ穌す基き督とく様さまの御ご誕たん生じやう其その儘ままである。しかも其その時とき澤さ山さんの天あま使つかひが來きたことや、美うはしい音おん樂がくが天てんで奏かでられたこと

なごは全まく基き督とく様さまの御ご誕たん生じやう其その儘ままだ、とは教け皇くわうノオ第だい十三じふさん世せ陛へい下かの仰おつしや有あつたお言ことば葉はで御ご座ざいます。

聖せい人じんが未まだ稚ちいい時ときお父ちちさんを訪たづねて來こられました一人ひとりの旅たび人びとは聖せい人じんを抱だき上あげて、此この子こは神かみ様さまが御ご自じ分ぶんの御ご榮えい光くわうをお顯あらしになる爲ために世よに下くだすつたのだよ、どうのお母つかさんに申まされました。

聖せい人じんは御ご成せい長ちやうなさいますに伴つれてお父ちちさんのお仕し事ごとの御ご手て傳つたひをなさいまして、齡としに相あ應おうしい遊あそびと娛たの樂しみをなさいました。それだものですから青せい年ねんの一番いちばん犯なし易やすい破は倫りんの罪ざい



悪から克く御自分の心霊を御自分でお救ひになることが出来ました。

ですから聖ポナベンツラは、快活であつて歡喜に充ちたフランシスコの心は、貪慾な商人達の間にあつても、友達達の忌はしい悪風に染まず、また悲しむべき快樂を貪るといふこともなく、ろしてまた世の寶にも心を奪はれるといふやうなことが無かつた。といふものは、貧しいものをお憐れみになる基督様の愛が聖人の心に自然と在つて片時も離れなかつたからだ。此の天賦の愛はフランシスコの成長

と一緒に、いや成長して、弱い者、貧しい者に対する憐憫の優しい愛心が胸の中に充ち満ちてゐたのだ。と申されま

した。  
ある日、聖人はお父さんのお仕事のお手傳ひをなすつてゐらつしやいましたか、あまりお忙しいもので御座いましたから、つい慈悲のお心が暫時隠れて居りました。それで施與を希ひました貧しい人に何もお與へになりませんでした。ろれに直ぐお氣が附かれますと、施與を希ひました貧しい人を追つかけて行つて澤山のお金をお與へになりま



した。そして申されますには、以後私は屹度神様の愛に背かない爲に、私に施與を乞ふ人があるなら決して無駄では歸らせない、と大變心からの誓言をお立てになりました。そして此の誓言は終生立派に貫かれたので御座います。

聖人が度々お話しになりましたお言葉の中に、私が貧しい人々に慈善をした後は、屹度神様の愛を感じて胸が躍らないといふことはありません、と御座います。

温い愛と優しみのお心を胸に韜んだ上に、美しく愉快なお心、毫も自分の利益を顧みない聖人の他愛のお心は、

眞實に聖人がお産れなさいました市の人をして聖人を愛し慕はした第一の理由で御座いました。

その頃アシシオの市に一人の使徒の様なお方が御座います。その方は言と行と堅い信仰とで名の高いお人でしたが、そのお方が街頭で聖人にお會ひになりますと、屹度上衣を脱いで聖人の前へ敷いて、此の青年は何日か屹度神様の爲に大變働くだらう、ほんとうに崇めて善い人だ、と申されたとは聖人ボナベンツラのお言葉で御座います。

聖人が世事に働いておるでになりました一日の事、神様



の御試誘とは御存じなく町の外へ散歩にお出かけになりま  
 すと、不圖昔馴染の一人にお會ひになりました。其のお人  
 は曾ては富み榮れたお人で御座いましたが、どうしたもので  
 ですか今は淪落れられました。眞にお氣の毒な御境遇に苦  
 しめられておるでになるので御座いました。それだもので  
 すから聖人は、見る影も無い不愠な其のお人のお姿をお悲  
 しみになりました。御自分の衣服を脱いでお與へになりま  
 した。翌る日の夜、神様は聖人の爲されました慈善の行爲  
 にお酬わなされる爲に、救世の印と申しますのは十字架の

ことで御座います、それの附いた燦爛とした甲冑が一つ  
 ばいの王宮を御顯示しになりました。聖人は其の王宮を御  
 覧になりますと大變お驚きになりました、これは一體誰れ  
 のもので御座いますか、とお問ひになりました。神様は直  
 ぐ、お前とお前の兵士のものだよ、とお答へになりました。  
 聖人は夢からお覺めになつて思はれますには、此の暗示は  
 兵馬の將となつて地上の赫赫たる勢名を贏ち得よとの意に  
 違ひない、と。乃で聖人は甲冑を鎧ひ、澤山の兵士と馬匹  
 を率ゐて、恰度その頃獨乙の皇帝と戦つて勝負の定らない



ポーチエ、ツ、プリエヌエの軍隊に参加しやうとアプーリ  
ユ指して御出發になりました。

此の旅路の第一夜、神様は再び聖人にお現れになりました  
て、自分の一番親しい友であるかの様に大變御親切なお言  
葉で、フランシスエよ、お前の爲にもつと優れたことを能  
く出来るものは誰だらう、神だらうか、兵卒だらうか、或  
は富者だらうか、貧しいものだらうか、とお問ひになりま  
した。聖人は直ぐに、それは全く神あなたで御座います、  
とお答へになりました。しますと天から、それぢやお前は

何故卑僕の爲に主人を棄て、何故貧しい者と亡び易い人の  
爲に無限の大な寶である神を見捨てたのか、といふ聲が起  
りました。そこで聖人は恰度聖ポーロの様に、主よ、あな  
たのお望みになりますことを私に爲すつて下さいませ、と  
お叫びになりました。天の聲は、お前の國へ歸れ、それは  
お前が受けた暗示は人の力に據らないで、たゞ唯神の助力  
に據つてばかりなる靈的事業をせよといふことなんだよ、  
と續きました。

やがて東の天が仄々と明け初めますと、聖人はアシシオ



へ急いでお歸りになりましたして神命をお待ちになりました。  
 此の時から祈禱に據て一層完全に神と一致なさいました。  
 若し稀に昔の友たちと一緒に宴會の席にでもお列りになり  
 ますやうなことがおありで御座いますと、私の心は皆さん  
 と一緒に此處にはゐませんのですと明瞭に申されるのが常  
 で御座いました。

聖人は愛の事業、禁慾と隠棲の靈的修養に日をお送りに  
 なりました。ある日の事で御座います。アミノオの平野を  
 馬でお通りになつてゐられますと、一人の貧しい癩病人が

向方から来るにお會ひになりました。思ひも寄らない事で  
 御座いましたから厭な思ひが胸に一つばい充ちました。が  
 自ら基督の兵士であると覺悟した自分ではないかといふこ  
 とにお氣がつかれますと、直ぐ馬から飛び下りて其の癩病  
 人を抱いて澤山の施與をお與へになりました。歸らうとな  
 さいます時、平野を振り返つて御覽になりますと、さきの  
 癩病人は早や其處に居ませんでしたものですから、これは  
 必竟天使が癩病人の姿をして私に現はれたのに違ひない  
 とお悟りになりました。



良久刻しましてから静寂な所で祈禱を献げ、歎息と涙と  
 で、私どもの父上よ、とどうぞ、あなたの御眞意を私に知ら  
 して下さいませ。と熱心にお願ひになりましたから、基督  
 様は十字架に釘つけられ給ふた儘のお姿でお現れになりま  
 した。これを御覽になりました聖人はお心が解けまして、  
 ろれからといふものは十字架を御覽になります度に御受難  
 の御喘楚を愛と涙無しに想ひお起しにならないことは無い  
 といふことで御座います。彼の時基督様は彼の十字架のお  
 上から、人若し我が跡に來らむと欲せば自己を棄て己が十

字架を取りて我れに従へ、と仰有になりました。聖人は元  
 來癩病人をお嫌ひになることが大變で御坐いましたけれど  
 今は愛の爲に十字架に癩病者の様に疵けられなさいました  
 基督様を御自分がお愛しなさいます様に、大な謙遜と愛を  
 以て癩病者を救ひ、また癩病者と一緒に御生活をなさいまし  
 た。其の頃聖人が羅馬の聖ペトロ天主堂へお行でになりました  
 した時、貧しい人を衣類と御交換なさいまして、御自分は  
 破れた着物をお纏ひになつて、聖堂の門を取り繞る乞食の  
 群集の中に終日交つておるでになりました。



聖人は斯うして日を送つてゐなさいましたうち、基督様  
 は亦別の方法で聖人にお願いなさいました。それは千二百  
 六年のある日のことで御坐います、聖人は聖ダミアン天主  
 堂の大變荒れすさんだ聖堂にお入りになりましたして、十字架  
 にかゝつてゐなさいます基督様の御像の前で一心にお禱り  
 なすつて申されますには、吁、神よ、無限の榮光でゐられ  
 ます神よ、我が主耶穌基督よ、どうぞ私の靈の暗冥を照  
 らして下さいませ。眞の信仰、堅固い希望、完い愛を私  
 に與へて下さいませ。私は常に御身の至く聖うて完い御意

に適ふて萬事をする爲に御身を私に知らして下さいませ。  
 と、涙が一つぱいになつたお眸で十字架を凝乎と御らん  
 なつてゐられますと、直ぐに十字架にかゝつてゐられます  
 る基督様のお姿から、行け、フランシスコよ、行つて倒れ  
 やうとする私の家を修繕せよ、といふお言葉が御坐いまし  
 た、聖人は其のお聲に大變畏怖をなさいまして、これは自  
 分の心の惑ひではないだらうかとお疑ひになりました。け  
 れど又も、行け、フランシスコよ、行つて倒れやうとする私  
 の家を修繕せよと、いふお聲がありますので、聖人は愈



恐怖の念に囚はれなさいました。そして此の不思議な聲は一體何處から來たのかをお疑ひになりました時、またもお聲が御坐いまして、これ、フランシスコよ、お前が目前に見てゐる其の今にも倒れやうとしてゐる私の此の聖堂を前の通りにせよ、と御坐います。そこで聖人は今の聲を正しく神様が此の十字架の御像から私にお言ひ聽かせになつたに違ひないとお悟りになりました、心は全く無限の歡喜に充たされなさいました。我が主は此の聖ダミアン天主堂を私に起こさせようとの御意に違ひないとお悟りになりました

た聖人は、お父さんの家へ急いでお歸りになりました、そして布を幾反かお持ちになつてフォリブの町でお賣りになりました、そのお金を此の小さな教會の靈父にお送りなさいました、賢い靈父は此の贈物を拒絶なさいましたが、此の世の寶をお好きにならない聖人は、お金を天主堂の窓の闕に投げつけたまゝ走つてお逃げになりました。

其の後聖人は主の御意によつて定められた善業をなさる其れの豫習として、先づ聖人のお身の上には様々な迫害と侮辱とが絶えず起つたので御坐います。聖人は聖ダミアン



天主堂の司祭のお家に二三日御逗留なすつておるでになり  
 ました。お父さんは聖人の意志をお確めになつて思はれ  
 ますには、若し此の子をして爲はうだいにさして置かうも  
 のなら屹度我が家の名折になるだらうと。そこで大變御立  
 腹になりまして聖人を伴れ歸らうと天主堂へおゐでになり  
 ました。聖人は早うからお父さんの御立腹を御存じになり  
 ましたものですから、全一ヶ月といふものは洞窟の中へお  
 隠れになりました。そこで聖人はお父さまやお友達からの  
 迫害に堪へる爲に熱心にお禱りになりました、主が鼓吹な

さいました。貴い目的を譲り受けるに適つた由をお告げにな  
 りまして助力の下ることを切に願ひになりました。  
 聖人は遂に此の聖なる隠棲によつて天からの助力をお享  
 けになりましたので、それから隠所をお出になりました。雄  
 々しくもアシヲオを指してお歸りになりました。  
 聖人のお友達は聖人の色の青褪めたお顔、瘦せてけられ  
 たお姿や、何もかもが一變したのを見て、聖人を常識の無  
 いものと嘲つたり、後を追ふて泥や石やを投げつけたり、  
 愚者め、狂者めと罵り騒ぎました。



このことをお聞きになりましたお父さんは、走り出られて聖人を捕へ、憤怒に任せて家へ引き入れ、お前は家名を汚した大馬鹿者だと、大變お叱りになりました。そればかりでは無く、残忍にもびしくと鞭でお鞭になりました。また其の上に古い階段下の凹穴へ閉ち込んでお了ひになりました。信仰の弱い人ならば如何でせうか。けれど聖人は此様な惨酷な事におあひになりましても静乎とお忪ねになりまして、福なる裁義の爲に迫害を忍ぶ者と仰有いました。た基督様のお言葉を慰藉として、迫害と壓制の裡にゐられ

ましても能くお心を平安に、ろして歡喜を多くお有ちになりました。

善いお母さんは聖人がお受けになりました迫害を大變お悲しみになりました。どうしても到底聖人の堅い御決心を翻すことは出来ないとお悟りになりました。とうとうお父さんの御不在を好機に、窃と凹穴からお逃しになりました。お母さんといふものは何の世にだつても好いもので御坐います。

ところがお父さんは家へお歸りなりまして、聖人が放た



れたといふことをお聞きになりますと、さつとお顔の色をお變へになりました、亂暴にもお母さんを嚴責なさいました。これは必竟聖ダミアン天主堂へ逃げて行つたに違ひない。いと御推察になりますと、矢も楯も堪らず一生懸命に走つて教會へお行さになりました。其の時天主堂で、お母さんに放して貰つたこと、神様に感謝してゐられました。聖人はお父さんのお怒に見ゆるやうと静に出おるでになりました。聖人は基督様をお愛しになる爲には如何な苦しみや艱難でも屹度忍ぶといふことを以てお父さんへのお返答となさ

いましたものですから、お父さんは如何な威嚇と罰を以てしても到底我が子の堅い決心は翻す由がないとお悟りになりましたので、布を賣つた代金を御請求になりました。聖人は先の日天主堂の窓の闕に投げつけられましたお金。が其のまま其處にありますのでお父さんに指でお教へになりました。けれどお父さんのお怒は解けませず、アシヲオの司教さんの前で家督相續の權利を正當な手續を輕て棄て了へとお命じになりました。聖人は私の一番貴い冀望は他にありませんとて、斷然としてお父さんの御希望をお容れに



なりました。そればかりではなく、着てゐられますものま  
 でお父さんにお興へになりまして、私は今日迄此の世では  
 あなたをお父さんと呼びましたが、今日初めて真にお父さ  
 んよといふことが出来ます、私のお父さんは天にゐられま  
 す。と仰有になりました。まつすぐに延びる松の木を無理  
 に曲やうとしても駄目で御坐います。アシシオの聖フラン  
 シスコの様なお方は、恰度眞一文字に延びる松の木の様な  
 お方で御坐いまして、將來世の人の爲にどんなにか貴い寶  
 とおなりなさいますか知れませんが、これを曲めて御自

分の意志に従はせやうとなさいましたお父さんのお所望は  
 少しばかり違つてゐやしませんでしたかと思はれてなりま  
 せん。人にははられなく進むべき道を神様から定められてあ  
 るので御坐いますもの。  
 司教さんは之れを御覽になりまして、聖人の意氣を壯と  
 し、感情が熱して聖人を抱ひ、御自分の上衣で、流れ落ち  
 る涙が聖人を包んだやうに聖人を蓋ひになりました。また  
 司教さんに仕へてゐられました一人の従僕は、粗末な服を  
 聖人にお上げになりました。聖人はこれを厚く御禮なさい



まして、白墨で十字架の印を描き喜悅に充ちて其れをお纏ひになりました。その意味は此の世に來られて十字架に釘打たれなさいました貧しい人（基督様）の御一生を表はしたもののなので御坐いました。

天地の大王の僕である聖フランシスコは、眞實に愛した主、即ち十字架の上に裸體でお死になりました主に従がふ爲、一切の物を棄て、贖罪の印を躰に鎧ひ、自分の靈魂を救世の聖木に委ねて世の波の厄難から脱れやうとしたのである、と聖ボナベンツラが申されました此の一語は、

私が今此處でお話し申して居りますアシジオの聖フランシスコの一生を通じて一番明瞭な色彩で御坐います、して、あなた方が今からお聞きになります此の聖人の御生涯の物語の要領なので御坐います。

大變静寂な夜で御坐いますね。此の通り窓玻璃を通して見えます庭の菩提樹の相戦ぐ梢の音が此處迄聞えます。はら／＼と散るのは白楊の病葉で御坐いませう。

聖人は新たな生活の門をお入りになりました。そしてアシジオをお立ちになりましたして静な所へお行でになりましたして神



の御啓示をお待ちになりました。

大變靜謐な深い森が御坐いましたので、聖人は其の森で最高の主さいかうしゅに讚美さんびを捧たさげてゐられました。すると盜賊とうぞくが四五人にんやつて來きまして、聖人せいじんにお前まへは誰たれたと尋たづねました。で聖人せいじんは、なに、私は大王だいおうの戦使せんしだよ、とれ答こたへになります。と、殘忍ざんにんにも盜賊とうぞくは聖人せいじんを滅多めつた打ちにして、冷つめたい雪ゆきが凍こてついでる塹坑ざんげうへ其その穴あなで往生おうじやうせい、神かみの戦士せんしだなんかと喚よばはる白痴うつけもの者もの奴の、と投げ込こみました。聖人せいじんは盜賊等とうぞくらが去さりました後あとで、また森もりで、基督キリスト様の爲ために白痴うつけもの者もの奴のと罵ののちられた

ことを名譽めいよとしてお悦よろこびになりました。

聖人せいじんは森もりを越こえて一修道院いつしうだういんへお行いでになります。サロモンの歌うたを聲高こゑたかくお歌うたひになりました。修道院しうだういんへお着つきになります。其處そこで施與せよをお受うけになります。して修道者しうだうしやに仕つかへて二三日にちお暮くらしになりました。聖人せいじんは其處そこで別べつに大たいした利益りやくを靈魂れいこん上じやうにお受うけになりませんでしたものです。からクツピオにお行いでになりました。其處そこで昔むかしのね友達ともたちから其その頃ころの風習なまじによりまして、修道者しうだうしやの着きる貧まじしい服ふくをお受うけになりました。



聖人は今や懺悔の服をお纏ひになりまして熱心と善業をお増しになりました。聖人は癩病者を御自分から看護をなさいましたり、それらの人の歎きをお慰めになつたり、それらの人々の傷を御自分がお洗ひになつたりなさいました。或はそれらの氣の毒な人々の求めるものを少しもお惜みなくお與へになりました。

最初は聖人此の仁愛の善業を大變お嫌ひであつしやいしましたが、後には此の事業の中に大な喜悅のあることを見出しになりました。今や曩の日の苦しみは靈肉の甘味と

なつた、と申された程で御座います。

神意は、それら貧しい人々の中の一人をして、聖人の脚下へ臥さしめになりました。聖人は直ぐと其の癩病者を優しくも搔い抱いて、慘ましく爛れた傷を接吻なさいました、すると其の傷は忽ち綺麗に癒つて了つたので御座います。此の様な接吻の微妙な謙遜には、此の様な奇蹟の出来る驚くべき力があると、聖ポナベンツラは申されました。

聖人の御一生は癩病者の父であり使徒であり、そして最後の目的の爲に此の方面に力を盡すことが出来なくおなり



なさいましても、聖人のお心は尙父の愛情を以て、ろれら  
 氣の毒な癩病人の上に臨んだので御座います。

幾月かの間、此の尊い聖い事業をなされました後、聖人  
 はアシヲオにお歸りになりましたして、聖ダミアン天主堂を修  
 覆なさいます爲に一軒々々にお立ちになりましたして寄附をお  
 求めになりました。これは將に壊れやうとしてゐる神の家  
 を繕れよ、と御座いました神命を聖人かお會得なさいまし  
 たからで御座います。

聖人は御自分で重い石や材木を御自分の肩でお運びにな  
 りましたり、煉石灰をお練りになりましたり、泥工をなす  
 つたりして人夫をお扶けになり、絶間無くお勞働なさい  
 ました。

ある日聖ダミアン天主堂の司祭は聖人の此の熱心を御覽  
 になりましたして、其の勞に報ゆるに大變美味な食事を以てな  
 されました。けれどこれは私の望む赤貧の生活ではない、  
 私は私自身が戸毎に立つて、人々の親切から受ける施與の  
 食物を食ふねばならない、これは全く貧しい中にお生れな  
 すつて、一生貧しくお暮らしたすつた、ろして最後には御



自分のでない奥津城にお葬られ遊ばされた基督様の愛にお  
 對し申して幾計にか正しい生活であらうぞ、とお思ひなす  
 つた聖人は翌日町へお行でになりましたして、貧しい物乞人達  
 と御一緒に御自分の食物を求めてお歩きになりましたし  
 聖人は人々からお貰ひになりました雑多な食物を一つに混  
 せてお上らうとなさいましたが、遠に氣味悪うてなか  
 く喉頭を通りません。けれどお椀の上に十字架を描いて、曾  
 て山海の珍味に對したよりも、もつと優れた美味なもので  
 あるとして喜んでお上りになりました。

輕佻浮華な今日の時に、襤褸を纏ひ、戸毎に立つて施與  
 を乞ひ、堪に難い世の嘲笑を毫も意に留ないで、却つてろ  
 れを喜んだといふことは實に驚嘆賞讃の辭が無い、それ  
 は全く基督様の十字架の恥辱を背負ひ、ろの驚嘆に絶れた  
 妙理を全く悟つて、これを擱いては他に何處にも身の光榮  
 を求めることが出来ないと明瞭に知つたからであると、教  
 皇レオ第三世は申されました程で御座います。  
 聖ダミアン天主堂の工事が出来上りますと、聖人は聖ペ  
 トロの守護の下にあるアシシオ市外の他の天主堂をも御修



覆よなさいました。それから天使てんしの聖せいマリアと名のついた天主堂しゆだうの御修繕ごしゆせんにも御着手ごやくしゆなさいました、此この尊とよい聖堂せいだうは市から一哩程いちりりの所に御座ございまして、ベネチクト會くわいから譲ゆづり受けました、修道者しうだうしやの聖院せいゐんに屬ぞくするもので御座ございました。

聖母せいぼマリア様に對たいする聖人せいじんの愛あいも、マリア様さまの中介おそりもちねで得ねられました聖寵せいちゆうとは、聖人せいじんをして此この聖堂せいだうを世よに二つと無ないものであると尊重そんぢゆうせしめました。

低い身分ひくみぶんから出でて、大變たいへんな勇氣ゆうきで以もつて突進つっしんして、赫々かくかくたる光榮くわうゑいを以もつて最後さいりを結むすんだのは實じつに此處こゝである、と聖せいボナ

ベンツラは申まをされました。

聖人御臨終せいじんごりんじゆうのおん時とき、此この聖堂せいだうは聖母マリア様さまが特とくに愛あいしてゐなされる聖堂せいだうであると世よの兄弟姊妹きやうだいしまいたち達たちに誠實せいじつに御推獎ごすいけいなさいました。御存ごぞんじの通り此このベネチクト會けいと申まをしますのは、多おほくの教會けうかいの中うち一番名いちばんなが廣ひろく知しれ渡わたつてゐる教會けうかいの一つひつなので御座ございます。

聖人せいじんの子こになりたいと願ねがふ人は、勅令ちよくれいによつて定められ  
てあります規則きそくに従したがひ、此この會くわいを搖籃うらんとし生家せいかとしなければならぬので御座ございます。此この會くわいの事業じぎやうは今は全世界せいぜんせかいに



擴がつて居ります。

ある日聖人は天使の元后聖マリア天主堂で彌撒聖祭の福音中に「金銀財寶を汝らの財囊に占むこと勿れ、又汝ら旅する時二枚の下衣と靴と杖と小袋に占むこと勿れとあるのをお聴きになりますと、これは神様が私にお話し下さつたものに違ひないとお思ひになりました。彌撒聖祭が終ると直ぐ聖人は申してお了ひになりました。彌撒聖祭が終ると直ぐ聖人は彌撒聖祭の言葉の意味を詳細に説明して下さいと司祭の方にお求めになりました。司祭の方は其の福音の言葉の意味

を釋いておあげになりますと、これこそ私の求めてゐるもの、それこそ私の最終の目的である、と申されて、靴は脱ぎ棄てられ、杖もお金も打つちやつて、そして荒繩を帯になさいました。聖人は今は一層貧しい服装をなさいました。現に聖人を父として修道なさる人は世界の何處へまゐりましても皆此の様な貧しい服装をなさるので御座います。聖人は會の此の服をお着になりました、多くの人を罪から悔ひ改めさせたいものだと出てお行でなりました。聖人の簡短で解り易い上に素朴な、しかも其のうちに熱誠の籠



つた言葉は聴く者の胸に深く沁み入らないといふことは御座いませんのでした。實に「骨髓を貫く兩刃の劍」の語を以て聖靈が聖人を鼓舞したのであらうかと存じます。世は聖人に集り、聖人は直ぐ十二人の弟子を得られ、お弟子は聖人を取り捲かれました。

一番目のお弟子はアシヲオの方で御座いまして、キンギビルラのベルナルドで御座いました。聖人の御奇特な御生活をお感じになりました。御自分のお家で寢食を一緒にしたいからと聖人をお招きになりました。二人は一室でお眠

みになりました。聖人はベルナルドが熟く眠つてゐられますのをお信じなさいまして、床を離れて跪き眼を天に注いで私の神、私に一切―あなたは私には一切萬事であられます。あなたは私の一切の善、あなたは私の希望、私の力、私の富、私の生命、私の歡喜、私の幸福であられます。あなたは私の冀望の一切であられます。とお叫びになりました。聖い愛の焰は終夜聖人のお胸から外へ燄々として燃えたので御座います。翌る朝ベルナルドは、聖人のお弟子になりたいといふことを切に御歎願になりましたが、



聖人は先づ此の事は主にお謀り申して、ないといけません  
 と申されました。これに據つて觀ても、どんなに聖人は御  
 謙遜のお心の高い方であるかといふことが直ぐに私共に解  
 るので御座います。

二人は直ぐに教會へお行でになりました。途中でアシジ  
 オの學者であるカタネオのペトロといふ方にお逢ひになり  
 ました。其の方も聖人のお弟子になりたいと御歎願になり  
 ました。そこで三人は打ちつれて御彌撒を拜聴なさいまし  
 て天主様の御判断をお求めになりました。

聖人は三位一體に禮を篤うなさいまして、三度聖書をお  
 開けになりますと、先づ最初に、汝若し完全ならむことを  
 欲せば行きて汝の持てる物を賣り拂ひ之れを貧しき者に施  
 せよ、といふ章句が出ました。次ぎには、汝の旅路にては  
 何をも有つことなかれ、といふ章句、其の次ぎには、人若  
 し我れに従はむと欲せば自己を棄て十字架を負ひて我れに  
 従へ、といふ章句が出ました。そこで聖人は、これこそ私  
 らの生涯である、これこそ私らの法規である、これこそ私  
 らに一致するもの皆の生涯と法規である。それであるから



行け、行つて若しお前方完全な人にならうと思ふなら先づお前方が聴いた所のものを完全にせよ、と二人のものにお話しになりました。

ペルナルドさんは直ぐに家財を賣り拂はれまして貧しい人々にお與へになりました。何故かと申しますと、ペルナルドさんは豊かな生活者でゐられましたので、ペトロさんも續いて斯うなされました。そして此の方はカンノリーを（佛蘭語ではシヤノアンと申します。日本語では大天主堂附屬司祭の職とでも申しますか）をおやめになりました。

二人とも聖人のお弟子になられたので御座います。

ペトロさんとペルナルドさんの一友人であるエマチオと申されます方は、二人が一切の所有物をお拂ひになつて聖人のお弟子になられました時御不在でゐらつしやいました。が、七日の後に其の方も世の財寶を打ち棄て、聖人の旗下に駛せ參せられました。

聖人の最初のお弟子は大概無學な、ろしてあまり世の人から何の注意もお受けになるお身分の方では御坐いませんでしたが、後には皆古昔の使徒の様に世に福音を宣べお傳



へになりました。

それらの人々はおあがるに麩餅も無く、枕して平和に眠る所へお有ちではありませんでした。けれど洗ふが如き赤貧は其れらの人々には一つの喜悅、一つの方で御坐いました。そして聖人とお弟子たちは、無限の勇氣を神の御意の中に置かれ、靈の平和は不變であつて基督様唯御一人其れらの人々の愛であつたので御坐います。十字架の恥辱唯一つ其れらの人々の方であり光榮であつたので御坐います。所々での其れらの人々の洗ふが如き赤貧の生活、粗末な衣

服、世の一切の事物をお軽じになりませす輕侮のお心は、世の人をして聖人と其のお弟子を異端者である、愚者である狂者であると罵らせました、けれど世間といふものを全く離れてゐらつしやいました聖人と其のお弟子たちの歸依のお心は、一部の明るい智識を有つた世の人をして、神に仕へた眞實の僕である友であるとして大變な歡迎をさしたもので御座いました、けれど聖徒達は敬はれ尊ばれる時よりか卑下められ排斥せられた時の方が、却つて澤山主に感恩の涙をお獻げになる方が多かつたので御座います。さうで



御座いましたればこそ、此の様な尊敬は私らが天主様から受ける所の賞を奪ひ去るものである、とエジヤオさんは常に聖人にお話しになつたので御座います。

千二百年の首、聖人は其のお弟子達をお集めになりまして、私たちの善良な寛仁な天主様は、私ら兄弟に優小な家族のふゆることをお望みになるのである。私らは最早後の半生を羅馬の教皇様にお任せしなければならぬ。その理由は、教皇様の御允許と御嘉納が無けりや、私たちの信仰も靈肉生活も鞏固、かつ善良なるものとなることが出来ない

からである。であるから私らは先づ母なる羅馬の聖公會へ行つて、天主様が私どもに斯うせよ、これをせよと御命令なされたことを教皇様はお話しして、御意見と御命令に従ひろして初めて事業を続けねばならないのである、とお話しになりました。

聖人は修道者會をお立てになりますのに、使徒から傳來しました羅馬聖會の教権の承認を輕た後に御設立になりました。萬事聖人の御意志御行爲が爾ういふ風で御座いましたから、お弟子たちは皆聖人の様に柔順、謙遜の御精神に



お染みになりましたして、教會の首領に絶對た服従する外、身も心も靈魂も安全である方法は無いとお悟りになりました。それで皆熱心にお祈りになりましたから、聖人は其の間に實に御立派な會則をお作へになりました。此の會の規則は、嚴正、赤貧、祈禱、謙遜、克己を主目としてあるので御座います。そして高遠な福音書の精神と福音の眞髓とが含まれてあるので御座います。

此の規則が出来上りました後、聖人はお弟子たちと御一緒に羅馬に向つて御出發なさいました。

聖人は神の都でアシシオの司教ギイドさんにお逢ひになりましたして、一と方ならぬ親切な御待遇をお受けになりました。た上、教會の學者サビーナの司教聖ポーロ天主堂の聖會樞機官ヨハネさんに御紹介せられたさいました。二三日してから聖人は御自分で教皇様に御謁見なされる爲に出でおいでになりました。

其の時は折悪しうも大凶事が御座いました。その時の教皇様はインノセント第三世陛下で御座いまして、聖人が御謁見の榮をお受けになりました時、教會の大事が教皇様の



お胸を悩まして居つたもので御座いましたから、聖人は直ぐに退出をお命せられになりましたし、聖人の御請願は直ぐには諾はれられませんでした。けれど聖人は御謙遜なされて御退出なされました。そして此の事業は何分にも十字架と謙遜とを以て始まつてゐるのだからと、たゞく喜びになるので御座いました。

教皇様は翌る日の朝お夢を御覽になりました。そのお夢と申しますのは、一本の棕櫚樹が地から生ひ出まして、それが漸次に大きく成長して澤山の枝や葉を出して、遂には

高い高い木になつた、といふお夢なので御座います。教皇様は不思議のおん思ひをなされまして、その暗示の意味をお伺ひになりますと、靈光が其の木の上に耀きましたので教皇様は昨日冷遇なさいました貧しい人こそ此の棕櫚の樹であるとお悟りになりました。

翌る日教皇様は聖人へ使者をお立てになりました。使者はラテラといふ所の近くにある聖アントニヨ病院で聖人をお見出しになりましたから、直ぐ伴れてワチカンの宮殿にお招きになりました。



教皇様は今度は快く聖人の御請願を御聽容になりました。たばかりでなく、神の優れた友として聖人を優しうもお抱きになりました。けれど御嘉納をお願ひになりました聖人の御規則には、奇矯であつて人間の方では到底成し遂げ難い嫌ひがあるとの、ある聖會樞機官が御反對なさいました爲に、お許しが出ませんでした。個人や共有の財産を禁ずる清貧は到底出来ないことであるといふのが、反對をなすつた樞機官のお説であつたもので御座いますから。

聖ボロロ 天主堂の樞機官であるヨハネといふお方は、二

三日してから會議の席上で皆の方に、若し私共が、彼の貧しい人の歎願を唯無闇に奇矯だと云つたり、ろんなことは到底實行の出来ることでないといふ理由で以て棄却してはねばならないとするならば、私どもをして基督様の福音を仔細に一考させよ。彼の貧しい者は唯福音の教へる所に照して自分の生涯の方針を定めやうとて、斯うは問題を提出するのである。假に今、誰れか福音の教へる所のこととは到底事實の上では不可能である、また不合理であると云ふものがあるとするならば、ろのものは恐らくは福音の



著者である耶穌基督に對したてまつて侮辱の罪を敢て犯すものである、と熱烈なお心と辯とでお話しになりました。そこで教皇様のお心もお動きになりました、それちや一應我れらの主基督様に、どうぞ、あなたの御聖旨を知らして下さいませと禱つてみよ、と仰有になりました。

暫時しますと、お啓示が教皇様に御座いました。それは、ラテランの聖ヨハネ大教會は唯一人フランシスコの力で救はれる、又、今にも倒やうとしてゐる天主堂の壁もフランシスコの手で支へられた、といふ御啓示で御座いました。

教皇様は此の御啓示を眞に此の貧人こそ基督の教會を其の言語と行爲とで支へる者であるよ、と御理解になりました。そこで教皇様は、聖人の御歎願を御聽容になりました。従者と多數の精神的援助者迄もお興へになりました、では行て全世界の人々を罪から救へよと御命令になりました。

それから聖人はアシシオにお歸りになりましたして聖人を取り繞る従者達と御一緒に茅舎にお住みになりました。幾日も經ちませんのに、澤山にお弟子が殖ねましたので、それらの人々を收容出来るだけの大な家が要るやうになりました。



たものですから、聖人は此の事をベネザクト會の院長に赤裸にお話しになりませうと、其の院長の方も大變事理にお分りやすい善い方であらうたものですから、では天使の聖マリア聖堂を貴君にお上げいたしませう。さあ萬望お使ひ下さい、が此の聖堂を永久其の會の起源とし出所として戴きたい、と仰有になりました。けれど聖人は、借用物として御拝借いたしたいので御座いますから、ベネザクト會の所有であるといふ証據としてベネザクト會へ毎年魚一籠をお贈りいたしませう、とお約束なさいました。

聖人は此の小さい禮拜堂をお借りになりました、跪座いてお禱りなさうとなさいました時、聖母マリア様と澤山の天使を左右にしてゐられます基督様は祭壇の上にお顯れになりました。

聖人は其のお姿を御覽なさいませうと、ぐらくとお眼が眩んで、震ひ慄いて地にお俯向しになりました。其の時に、私がお母さんと此處に來たのは他事ではない、お前とお前の他のものを、私らが豫め定め置いた此處に結び合さうとの心であつて、此の家は特別の縁があつて私らが異



の外愛してゐる所である、と仰有られました基督様のお聲をお聞きになりました。聖人はお喜びにお充ちになりました。仰有いますには、さうです、此處は全く聖所で御座います、人の住宅であるよりか、天使の棲家である方が優に勝れて居ります、と。

千二百十一年の首領で御座いました。聖人はお弟子達をお呼びになつて申されますには、耶穌基督様は名も無い雜輩の汝等を選んで宣教者として主のお前に汝等を尊い者となすつた。汝等のうち世智に長けた者は尠く、高貴の生れ

も亦稀だ、才能のある者も多くない、けれど基督様は汝等の言行によつて全世界の人をして主の御光榮を崇めしめやうが爲に汝等をお選びになつて、此の大なる事業に當らしめ給ふたのである、と。

で聖人は一人宛を伊太利の各地へお遣はしになりました。御自分は司祭のシルベステルオさんを伴になりました。

千二百十二年に聖人はアシシオへお歸りになりました。市民が聖人にお目にかゝらうとて、あちらこちらから澤山集りまして、聖歌や頌徳の歌を歌ひました。けれど聖人は



これら總ての光榮を皆主に歸して決して御自分みづからが産み出した光榮であるとはなさいませんでした。そして其の年アシシオでの四旬節の間を其處で御説教なさいましたら、非常に多數の市民が争ふて聖人の救靈の誘導に覺め歸りました。其の多數の人々の中には彼の有名なクララ會の開祖者である聖クララさんも混つておゐてになつたので御座います。

教皇レオ第十三世陛下は斯ういふことを仰有になりました。た。聖フランシスコに集つた群民の熱狂さといふものは殆

ど形容することが出来ないくらゐであつた。あらゆる階級の人々が彼れの規則を賞はうとて、集り來て願つた其の光景は大都市も小市も何の違つたことではない。であるから、聖人は是れに鑑みて貴賤老若男女の差別無く一つ所に收容してしかも社會の自分、家族生活を損はない方法を以て第三會を設立したいと固く決心をした。で、その會の規則は先づ第一に神と神の教會に従順であらねばならんといふことを主眼として、諍闘と鬭殴を避け、隣人相愛し、宗教と國家に抵抗するものばかりに挑戦を取り、衣食を節し、榮耀な



ことはしない、歌舞演劇なんかよら来る種々な危険な誘惑  
 を戒しめる、といふことである。であるから、時勢に適つ  
 た此の様な健全な制度から如何に莫大な効果が生じたかと  
 いふことは容易に推測することが出来る。第三會の事業は  
 天主公教會の教誡を保護し、いつも強い勇氣と信仰を現  
 はし、一方では彼れらの徳行は不正な俗輩の憎惡の的とな  
 つたけれど、又一方ちや善い人や智慧學問ある人の讚賞を  
 失はなかつた。先驅者グレゴリオ第九世陛下などは公然彼  
 れらの信仰と勇氣を讚賞なすつて、教權を以て彼れらを保

護なすつたばかりでなく、名譽の表章として彼れらを基督  
 の兵士、新たなマカベオとお呼びになつた。家庭の平和、不  
 朽の道徳、温雅な行爲、正當な収益と個人の財産の保護、  
 文明と社會の安寧鞏固は、恰度根から出る双葉の様にフラ  
 ンシスコ會から芽を萌し、歐洲全土が之れ等を聖フランシ  
 スに負ふ所は實に莫大なものである。現時幾多の混亂の  
 中にある私の尊敬して居る兄弟姉妹達よ、今日の社會、  
 今日の國家を理想の郷土とするのには、フランシスコ會の  
 初期の制度に立ち歸らしめるの外救濟の望みが無いといふ



ことは誰れもが明々に知つて居ることである。何故かといふにフランスシス會が興隆すると信仰と敬信、基督教の諸徳は容易に生ひ茂るからである。であるから私に會て特に此のフランスシス會第三會に注意を拂つた緣故で以て、今は聖旨によつて最上の主權者と呼ばれてゐるから、一番好い時機の來たのを好機全基督教徒に、遲躓すること無く耶蘇基督の此の聖軍に來り投じることを勧めよといふ。汝力の有る限り世の人に第三會の尊いことを知らしてやれ、そして其の會の性質といふものは如何なるものであるかといふ

こと、其の門に入ることの容易なこと、永久の救靈を受けらるのに如何に大なる特別の恩寵が多いかといふことを懇切に教へ知らしてやれ。そして誰れもの上に下る恩寵の効果は如何に大なるものであるかといふことも心から知らしてやれよ。今から七百年の昔、伊太利と基督教信徒の大多數がアシジオの聖人の熱誠によつて亡滅から安全に、混亂から平和に復歸することの出來たのは明瞭な事實である。と迄申されました。

まゝ九同じ年、同じ教皇様は伊太利の第三會の修道者に、



私は第三會が廣く擴張することを望む。その目的の爲に一意邁進しやう、世界の人が悉く第三會の修道者となることを希望する。とりわけ聖フランシスコの精神を實際に行ひたい、といふ御宣言をお下しになりました。

一夜聖人は罪人の爲に祈禱をしてられますと、一人の天使が顯れて云ひますには、あなたは急いで天使の元后聖マリア天主堂に行らつしやい。そこには主耶穌基督様が聖母マリア様と御一緒にあなたをお待ちになつてられますと。それで聖人は取るものも取らずに大急ぎで教會へ駛せ

參られますと、左に聖母マリア様、右に澤山の天使、その中に主耶穌基督様はお立ちになつて居られます。聖人は跪いて先づ敬拜なされ、胸に溢るゝ感謝の心を大なる聖寵の前に申しあげられますと、フランシスコよ、お前とお前の弟子は救靈の事業に大變な熱心を以て當つた。お前は世の光明となり教會の柱となつた。だから私の榮光と人類の慰藉となる程の有益なことがあつて、それを望むなら私に願ひ求めるが善いよ、と宣はれますお聲をお聞きになりました。それで聖人は早速謙遜なお心で、我が主耶穌基督様よ私



は罪人に過ぎませんけれど、どうぞ此の教會に來まして司祭に罪を告白する者には全贖宥をお與へ下さいませ。また、人類の傳達者であり、あなたのおん母様でゐられなする童貞聖マリア様にお願ひ下さいまして、唯今の此の恩恵が私に下りやすやうにお取り下さいます、とお願いになりしました。聖母マリア様は基督様をお顧みになりました。其の恩恵をお求めになりました。それで基督様は申されますに、フランシスコよ、お前が私に求める所のものは大變大い、けれど、もつと大いものを求めよ。私はお前が求める

所のものは何でも與へるよ。けれど私の代權者へ行け、地上で結び又解く所の力を與へ置いたから、行つて其の裁可を受けよ、と。

翌朝聖人はオノリウス第三世陛下にお見えなされたいとヘルギアへお行でになりました。そして卒直に來意をお述べになりました。聖なる父よ、私は數年來御身の管轄に屬して居ります一つの小さい教會を修繕いたしました、どうぞ其の教會を訪れ來る者には、何の奉養を持つて参りませんでも贖宥を與へてやつて下さいませ、と。教皇様はお答へ



になつて申され申すには、お前が求める所のものは大く  
 常例に反して居るぞよ、と。そこで聖人は、聖なる父よ、  
 私は私の名で之れを求めらるのでは御座いません、主耶穌基  
 督様のおん名に據つて求めらるるので御座います、とお答へに  
 なりました。そこで教皇様は、私はお前の希望を許す。お  
 前が云ふ其の贖宥のことを永久に許可す。けれど一年の中  
 たゞ一度だけであるぞよ、とお許しになりました。

聖人は此のお許容のお言葉を聴きになりましたと教皇様  
 の祝福を受けて立ち出やうとなさいました。教皇様は之れ

を御覽になりました、淳朴な者よ、お前は何處へ行くのか  
 何を以て私が與へた許可の証とするか、とおたづねになり  
 ました、御身の御辭で充分で御座います。若し贖宥が神様  
 に關係のあることで御座いますならば、神様が之れを御表  
 彰なさいませう、耶穌基督様は公然の証人でゐられます、  
 聖母マリア様は証明の書でゐられます、天使達は証人で  
 御座います、と聖人はお答へになりました。

二年あまりしまして、ある時聖人は魔鬼にお襲はれにな  
 りました。その時聖人は長い鋭い荊のある籐の上へお轉び



になりました。血潮は脈絡から颯と逆り出ました。その時、荆の多い籬は直ぐ紅と白との薔薇で蓋はれました。そして天使が其の上に現れまして云ひますには、フランシスコよ、急いで教會へお歸りなされ、あなたは屹度基督様と聖母マリア様におあひになるでせうよ、と。聖人は紅と白との薔薇の花を十二お取りになつて教會へ行かれ、基督様と聖母マリア様のおんに平伏して贖宥の日をお定め下さいとお願ひになりました。そこで基督様は、贖宥の日を聖ペトロが天使に釋放された記念日（即ち八月一日）から次日

（乃ち夕方）までとお告げになりました。

此のポルチウクラの贖宥は新教の信者が度々攻撃する所のもので御座いますけれど、ごうして彼れらは能く此の聖恩を傷なふことは出来ないので御座います。此の六百年の間、毎年教皇アレキサンダー第四世陛下、マルチン第四世陛下、ボニフワシヨ第八世陛下、クレメント第五世陛下、ヨハネ第二十二世陛下、ベネジクト第十世陛下、ポーロ第五世陛下、シキスタス第四世陛下、レオ第十世陛下、ポーロ第五世陛下、ウルバー第八世陛下、皆、論文によつて御



承認御許容なされたので御座います。博學雄辯の士聖アン  
トニノ、聖ベルナルダノ、ベルラルミノ、ポツスエ、ブー  
ルダルーや多くの人々は皆之れに就て辯護の勞をお取りに  
なりました。我が天主公教會の信者は、主耶穌基督様の御  
聖愛のおん目的と、人心の常に求めて息まない者を知らな  
い世の人の嘲笑を受けましても、此の贖罪を信する事を現  
はす爲に、年々群を作して此の聖堂に詣でますばかりでな  
く、全世界の聖フランシスコ會の教會に集まるので御座い  
ます。それはグレゴリオ第十一世陛下によつて千六百二十

二年から此の大恩典を世界の聖フランシスコ會の教會に興  
へられたからで御座います。

愛といふものに就きましては、聖人御自身がお話しなさ  
いました通り、聖人のお心を變へ、神の創造に成つた物一  
切は、聖人を神に高上せしめる多數の階段であると御らん  
なるに至つたので御座います。ですから天に在る太陽や星、  
地に在る生物に兄弟姉妹といふやうな優しい名をお附けに  
なつて、一切の主である天主様を崇め其の御恩を感謝おさ  
せになりました。







お養やしなひになつて、いつも教會けうかいへ伴いっれてお行いでになりました  
のに、羊ひつじはよく聖せい躰たいの秘蹟ひせきに敬意けいゐを表あらわしました。  
ある日ひベニスベニスの町まちを一人ひとりの行者ぎやうじやとお歩あるきになつて居をりま  
すと、葦あしの中なかに多おほくの小禽こどりが歌うたつて居をりますのを御聞おききに  
なりました。聖人せいじんは行者ぎやうじやを顧かへりみて、私わがしらの同胞まがうだいである小禽こどり  
たちは神かみを讚美さんびしてゐるらしい、いざ私わたしらも聖歌せいかを歌うたつて  
神かみを賞ほめたよほませうと申まをされました、けれど小禽こどりの歌聲うたごゑ  
が餘あまりに高たかいものですからおたがひに歌うたふ歌うたの聲こゑが能よく聞きこ  
えません。うれたものですから聖人せいじんは小鳥こどりに向むかふて、私わたしの



兄弟である小鳥よ、私らが歌ひ終る迄しばらく黙つてゐてくれよ、と申されますと、小禽は直ぐに歌ひやんで、聖人ともうお一人の方が頌榮の歌を歌ひ終りなさる迄大變靜蕭を守りました。

鳥さへ、野兎さへ、狼さへ、聖人を友とし保護者といたしました。私は今グツピオの狼に就て面白いお話をいたしませう。

グツピオの郊外に犖猛な一匹の狼が棲んで居りまして度々住民を脅しました。澤山の人が其の狼に命を取ら

れまして大變な損害を受けました。聖人は此事を悲しくお思ひなさいましたから、兎に角狼に一度面會がしたいと思ひ立たれました。同伴者數人を伴れてお出かけになりました。けれど同伴者は直ぐ恐怖に囚はれて了つたもので御座いますから、聖人は皆をお歸しになりました。唯一人兇猛な野獸の窩穴へお進みになりました。狼は聖人を見ますと直ぐ、顎腮を恐ろしく開けて聖人に飛び附きました。聖人は十字架の印をなさいまして狼に立ち向はれつゝ申されますには、さあ来い、私の兄弟である狼よ、基督様のお



ん名に據つて来い、私はお前に誰をも害するなと命じる、  
 狼は直ぐに小羊の様に温和になつて聖人の足もとへ俯  
 伏しました。聖人言葉を續けて申されますには、私の兄弟  
 である狼よ、お前は此の郷を恐ろしく荒らしたばかりで  
 無く、禽獸を大食し、剩へ神が御自分に象つてお造りなす  
 つた人間をさへ食ひ荒らした、此の重々のお前の罪は死に  
 相當して居る。けれどお前は飢れたが爲に此様なことを爲  
 たのだらうと私は思ふ。だから私に誓約を立てるが好い。  
 若し此の後此の町の人がお前の爲に食物を十分與へてくれ

るなら、誓つて此の様な残忍なことは爲ない、と。狼は聖  
 人の意を諾した証として垂首いたので御座います。それな  
 らお前は此の誓約を履行する證據を私にくれよ、と申され  
 て自ら聖人は御自分のお手を狼の前に差し出されますと  
 狼はこれが證據として前脚を上げ聖人のお掌の中に置い  
 て、後に聖人に従つて市へ入りました。其の後此の狼は  
 二年の間生きてをりまして、食物の爲に毎日グツピオへ參  
 りまして、住民が喜んでくれますものを食べました。  
 聖人が靈魂上の熱心は竟に聖人をして東方に行かしのめ、



十字軍（と申しますのは千九十六年から千二百九十一年の間の東西兩洋人種の争ひで御座いました、又キリスト教徒とイスラム教徒との争ひで御座います、そして當時の歐羅巴人は如何に基督教に熱心であつたかといふことを知ることが出来るので御座います）に連らうと御決心なさいました。

聖人は回教徒をして眞正の宗教に入らしめるか、そうでなくば回教徒の手に僵れて殉教の死を遂げたいとお望みになりました。

恰度其の時聖人は十字軍の包圍中にあるダミエツタにお着きになりましたが、誰れも生命を賭けないでは軍營から軍營に行くことが出来ませんでした。といふものは基督教徒の首を持つて来るものには回教王が褒美を與へると約束をしたもので御座いますから。

聖人と其の同伴者は此の危険を冒して大膽にも市へお進みになつて申されますには、たとへ私は死の影を歩いても恐れない、主は私と共に坐すから、と。

聖人と其の同伴者は回教國王の番兵に捕はれて鐵の鎖で



お縛れになつて回教王の前にお引き出されになりましたし  
 王は聖人に向つて、何故此の王國へ入つて來たのかと問ひ  
 ました、私は一番高い神の味方としてお前とお前の民の爲  
 に救靈の道を宣傳へ、眞の福音をお前に傳へたいと思つて  
 來たのぢや、と聖人はお答へになりました。そして聖人は  
 我が聖教の大眞理を、聖人固有の滔々懸河の辯を以て論じ  
 サルタンは喜んで聖人の雄辯を靜肅に傾聴し、聖人に萬望  
 此の領土に留つて戴きたい、歎願いたしました。聖人は答  
 へて申されますには、若しお前とお前の民が改宗するなら

私は喜んでお前の領土に留らう、しかし若し耶穌基督の教  
 の爲にマホメットの教を捨てないなら大火を起して貰ひた  
 い。私はお前の司祭を抱いて其の火を渡らう、その時お前  
 は、どちらが眞の信仰であるかを明かに判斷し得るだらう  
 と。サルタンは答へて、我がマホメットの司祭で此の様な  
 提供に應じ得るものがあらうとは殆ど思はれ得ないと申し  
 ました、そこで聖人は然らば仕方が無い、若し私が火を渡  
 つても焼けないならば、その時お前とお前の民は基督の教  
 を屹度奉じると誓ふなら、私は唯一人で其の火焰の中へ入



つてみせるとお答へになりました。

けれどサルタンは此の提供にも従ひませず、聖人も亦言説するだけ無用であるし、また殉教の志を遂げることは到底出来ないとお悟りになりました、遂に其處をお立ちになつて、基督教徒の軍營さしてお歸りになりました。がサルタンは内密に聖人に、主よ彼れに眞の信仰を知らしめ給へ、と禱つて戴きたいと願ひました。

後年聖人はシリアの行者にお會ひになりました、回教王に洗禮を授けに行けとお命じになりました。聖人の此の聖

地遠征には、實に此の六百年の間聖地に於るフランシスコ會の所謂信仰的征服に依つて多くの改宗者を出したので御座います。全歐洲の勢力が企て及ぶことの出来ませんでし

た事業を、聖人の微賤な繼續者は能く成就し、聖人セラフインの記念すべき訪問に依つて聖地を能く保護したので御座います。

聖人は公教會に對して大なる愛を有つておるでになりました。聖人が申されました言葉に、「總ての教會の母は羅馬の聖會である。私は行つて聖會に私の修道者を預けやう。聖



會の保護の下にさへるるならば我が會の上に凶事は降りか  
かるまい。聖會は光榮ある私ら清貧者の熱心な保護者であ  
る、聖會は私らの爲に不變な平和、愛の索を支へ持つであ  
らう」と云ふのが御座います。

聖人は其の會の保護者を教皇にお求めになつて申されま  
すには、私らが参りまして公教會の主上者の門を叩くこと  
は誠に恐懼に堪へません。が教皇様、どうか私の會の爲に  
オスチアの司教様をお興へ下さいませ。若し私の願ひを御  
許し下さいますならば私は直ぐにオスチアの司教を訪れま

せう、これを決して教皇様の大權を犯すのでは御座いませ  
ん、御身の御權能と一切の權は皆あなたから出るので御座  
いますから、と。

聖人は此の會の戒律に於ていつも申されました。同じ聖  
會の配下にある柔順な臣として、天主教會の信仰を確實  
に保ち、主耶穌基督様の御清貧、御謙遜、聖福音を私らは  
堅く約した様に守らねばならない、と。私どもは聖人の戒  
律が羅馬の教皇様に裁可され、耶穌基督様から受けられた高  
いポルチウンクラの贖宥を不動の教權に據つて批准せられ



たといふことを知ることが出来ました。

聖人が申されましたお言葉に、教皇の御承認御裁可が無  
けりや、修道者の生涯と信仰は都て善良であり安固である  
ことが出来ない、と。

聖人が御聖體に就ての愛といふものは大したものので御座  
いまして、聖ボナベンツラのお言葉の中に、聖フランシス  
コの聖體に對する燃ゆる様な愛は聖人の骨髓を迄焼きつゝ  
したやうである、と御座いますのを見ても直ぐ解るので御  
座います。で御座いますればこそ、聖人がお書きになりま

した教書に、全世界の火焰の詞辭を以て此の至愛の秘蹟に  
有らむ限りの尊敬を拂ふやうにとて、私は私の兄弟姉妹に  
望む、私は出来る限りの愛を以て皆の脚を抱へて懇願する。  
皆あらむ限りの尊敬を基督様のおん血とおん肉に献げてく  
れよ、私らは恁して萬能の父であらせられる神に一致する  
ことが出来るのであり、平和が天地に成るのである。さう  
であるのに、主の御聖體を輕蔑にしたり、不適當な場所に  
お置きをしたり、或は不敬虔に持ち運びをしたり、不謹  
慎に御聖體を受けたり、輕忽に授けたりすることは何事ぞ。



私は此の亂暴な行爲を嘆くまいとしても嘆かすにはおられない。さうではないか、私ら日々御聖體を拜領して、主耶穌基督様が私と一緒に御留まり下さることを思ふなら。と御座います。

愛と感恩に歡喜なさいました聖人は叫ばれて申されますには、あゝ知ることの出来ない一番高い尙いものよ、あゝ測り知ることの出来ない一番の善よ、極の無い謙遜よ、宇宙乾坤の主上神、ろして神のおん一人子、麩麵の形色の中にお宿りなさいます程御自分を卑下なさいますおん方。

静に考へてもみなさいよ私の兄弟姉妹よ、神の御卑下、御謙遜に就て。あなた方の赤心を開き露して主基督様のおん贈物にお返しをなさい。そして私どもは主のおん前に自己を卑下し、主基督様が私どもに御血とおん肉をお與へ下さる様に、私どもも亦全く自己の一切を主基督様にお献げ申さねばならないぞよ、と。

私どもが今日御聖體に對し奉りてお拂ひ申します尊敬を、ほんとうに聖人は御自分から實際にお現しになりました上に、人々にお教へになつたので御座います。たびく



聖體拜領の要旨をお教へになり、貧しい教會を扶けたり、  
 聖體訪問の不足者をして、屢聖體を訪問し、それによつて  
 多くの聖寵を受け、信仰を燃やすやうになさいました。又  
 此の外、彌撒聖祭に對する愛をお起こさしめになつたので  
 御座います。

聖ボナベンツラが、他人をして敬虔ならしめる程熱心に  
 と申されました通り、聖人おんみづからが度々御聖體を御  
 拜領なすつたので御座います。聖ボナベンツラのお言葉に  
 聖フランシスコは廢れた教會、殊に地方で廢れた教會を見

る時は、自分の力で出来る限り聖堂を清淨にし、修覆を加  
 へ、潤飾爲た。聖祭の聖餐が足らないといふことはないだ  
 らうか、町重に準備がされてないといふやうなことがあり  
 やしないだらうかといふこと迄も心配して、自分で澤山に  
 調製爲て必要ある教會へ持つて行つた、此の様な注意は遺  
 憾無く御聖體に關する萬事の上に行き渡つた、と御座いま  
 す。

聖人は平素主の御苦難の御苦楚を常に心に描き出さねば  
 ならないと其の修道者にお勧めになつて申されますには、



主耶穌基督様の御謙遜と御清貧、私どもを罪からお贖ひ下さつた十字架を常にお前たちの眼の前に描けよ、と。

聖人は大使徒の様に此の現實の世界では十字架にお架りなさいました基督様たゞ御一人をばかり御覽になつたので御座います。

私の心、靈は、我が主の御苦難の思ひで一つばいになつてゐる。私が若しか世の終末まで生きてをるやうなことが假りにあるとするなら、私の心を占領するものは主耶穌基督様の御苦難の外には何も無いだらう、と聖人は申され

ました位で御座います。

聖人は平素基督様の御苦難を心に想ひお浮べになりまして、涙を流して泣いてゐられますのを他からお答められになりましたから早速に、私は我が主の御苦難を思ひ出で泣くのだ、それだから全世界の人の前で泣いても決して恥かしいことではないのだ、とお答へになりました。

十字架にお架りなさいました基督様に對する聖人の愛は主耶穌基督様がお受けになりました御創痍を我が身にお負ひなさいましたやうに、聖人には此の上も無い御名譽であ



つたので御座います。

十字架頌祭(九月十四日)の朝、聖人がアルベニア山の傍で祈禱をして居られると、六つの翼のある、煌々した光輝を發つてゐる一人の天使が大虚の高い高い所から、大きな翼を翼叩いて聖人の上へ降りて來た、その時翼の間からおん手、おん足を十字架に釘つけにせられてゐられる基督様の御聖姿が顯れた。聖人は此の暗示の幻影を見て大變に打ち驚き、肉身の殉教に據らず、愛の火に據つて磔刑にお舉りなすつた基督様の様になつたといふことを悟つた。其



天使が大空の  
高い高い  
所から……  
基督様の  
御聖姿が顯  
はれた。



の暗示あんしが消えて聖人せいじんの心こころには驚おどろくべき熱誠ねつせいが起おこつた。その  
 上うへに其事そのことにも劣おとらない驚おどろくべき奇異きいなことが聖人せいじんの肉體からだに  
 留とどつた。それは釘くわが聖人せいじんの掌てのひらと足あしに現あられたこと、左ひだりの脇わき  
 腹はらには恰ちやうど度ど鎗やりを以もつて貫つらぬき通とおしたかの様やうな紅あかの創痕きづが現あられた  
 こと、それから其そのの創痕きづから血ちが度々たびたび流れ出でたといふ此この  
 事ことである。此このの尊たうとい創痕きづは聖女せいぢよクララや五十幾人いくにんの修道者しゆだうしや  
 が確實かくじつに見みたものである。教皇けうくわうアレキサンダー陛下へいかが、私わたし  
 ら多おほくの修道者しゆだうしやに御説教ごせつけうなすつた時とき、聖人せいじん在世せいせいの折かり朕わたしも親した  
 しく其そのの創痕きづを實際じつさいに見みた、と仰おほせになつた、と聖せいボナベ



ンツラは申されました。教會は九月の十四日を以て聖フラ  
ンシスエの此の大きな神恩の創痕を記念いたします。

聖人は主の御名を思想ばかりでなく、公言又は著作物に  
對して適當の敬意を以て尊重したいとお思になりました。  
それです。聖人は修道者に、主のおん名のある著作物や  
其の他の物は殊の外注意して適當な場所に收め過つて踏む  
やうなことはおさせになりませんでした。御臨終の時、私  
は主の最も聖い御名やお言葉に關しての書籍が不都合な場  
所にあるのを見出すなら、屹度私は其れを取つて恭しく

藏つて置くやうにしてもらひたい、と皆々お話しになりました。

聖人は朝夕おいのりをなさいます時、いつも屹度大變な  
恭敬のお心と御熱心とを以てなさいました。若し旅路にで  
もあつておいのりをなさいます時には、いつも屹度立つて  
洗足になつて、うの上に帽子までもお脱ぎになつて恭し  
くなさいました。雨が降りましても、風が吹きましても、  
聖務をお怠りになつたといふやうなことは一度も御座いま  
せんでした。聖人が申されましたお言葉の中に、私どもは



腐る私どもの肉體を養ふ爲には食事を取らねばならないやうに、神のお言葉である安静と平和を私どもは私どもの心の糧としなければならぬ、と御座いますのを見ましても、そんなに聖人は宇宙乾坤の主を畏れ敬はれたか、といふことを容易に知ることが出来るので御座います。

聖ポナベンツラのお話になりましたお言葉に據りますと、聖フランシスコは聖母マリア様にお對し奉りては非常な信仰と愛とを有つておるでになりました。聖フランシスコが聖母マリア様をお呼になりますには、慈愛と善の充ち

満ちた聖母、皇后、そして御身は、御身の様に柔順な、甘美な主耶穌基督様の御母さま、城、砦、宮殿でゐられますと申されましたら、非常な愛と信仰とを有つてゐらつしやつたので御座います。

聖人のお言葉に、私が慶き聖母マリア様と呼びますなら、天は微笑み、天使は歡び、世界は雀躍し、地獄は震ひ慄き悪魔は逃げる、と御座います。

聖人は聖母マリア様を會の保護者となさいまして、聖マリア様の御保護を感謝なさいます爲に、聖ペトロと聖ポー



ロの祝日から（被昇天祝日迄）毎年大齋をなさいました。  
 ポルチウングラの小さい天主堂御清浄な聖母マリア様の御聖  
 心にお献け申したもので御座いましたから、特に聖人には  
 親しいものであつたので御座います。聖人は此の天主堂で  
 其の中保に據つて未聞の恩恵をお受けになりましたし、聖  
 母マリア様は御子の基督様を以て聖人の會の爲に祈禱をお  
 願ひになりました。聖母マリア様は澤山の天使の中にお立  
 ちになりましたして聖人にお現れになり、大贖宥を聖人にお與  
 へになりました。それだもので御座いますから、聖人は一

般の會議に於て、聖人の會に屬する修道院は皆盛大な彌撒  
 聖祭を聖母マリア様の御聖寵にお酬なさいます爲に擧げ、  
 毎土曜日に聖歌を唱へねばならんといふ規則になさいまし  
 た。  
 聖人は第一會、第二會の修道者、それから第三會に屬し  
 てをる信者に、煉獄の靈魂の爲に祈れよと御命じになりま  
 した。聖人は會の規則の一番末段へ持つて行つて、司祭は  
 生きてをる信者の爲、亡くなつた信者の爲にキ禱文と、テ、  
 プロフンデスを誦へよ。死者の爲には七度慶—聖寵充滿て



るマリアの祈禱を唱へよと御命じになりました。

又、クララ會の會則には、字の讀める姉妹たちは死者の爲に聖書を讀めよ、とお定めになりました。第三會の會則では、何會々員の死後一週内は、其の司祭の信者の兄弟姉妹たちは、靈魂の安息の爲に彌撒聖祭を一度拜聴し、聖詩集を知る者は三十篇づゝ唱へ、知らないものは同數の主禱文の結尾に永久の平安を附けて唱へよ。此の外、まだ生きてゐる信者、もう亡くなつた信者の爲に毎年三回行ふ彌撒を拜し、聖詩集を知るものは之れを唱へ、知らない

ものは各其の結尾に永久の平安を添へて主禱文を百回唱へよ、とお定めになりました。

聖フランシスコのお言葉に、私ら一切の罪を司祭に告白して、主耶穌基督様の御血と御肉とを受けねばならない。その理由は主の御肉を食し御血を飲まないものは天國に入ることが出来ないからである、と御座います。

第一章で嚴命して申され申すには、會員は罪を其の會の司祭に告白せよ、若し是れを爲ることが出来ない時は、他の謹慎な公教會の司祭に告白せよ。何の司祭から罪の贖ひ



と宥を受けても、その罪は疑ひも無く赦されるのであるといふことを信じよ。何故かなら司祭ばかりに解き又結ぶ力が興へられてあるのだから、と。

聖人は其の臨終の近いことを御自分で御存じになりますや、ピラトロの修道者達をお呼び寄せになつて申されますには、神の司祭よ、私が今我が會の修道者に興へる祝福を記せよ、私が今云ふ所のものは世の終末迄あるであらう。私は最早力が衰へたから澤山云ふことは出来ない、それで二語三語で自分の希望と所思を、我が兄弟たちと現在未

來とに向つて語りたい。さうぞ我が兄弟たちは、私があなたを愛したやうに、又今でも愛して居るとほりお互に相愛してくれよ、常に清貧の皇后を愛し、天の道に悖るやうなことを爲るな、常に聖羅馬公教會の教皇様や司祭たちに忠實従順であれよ。そして常に父と子と聖靈の恩恵と保護を受けねばならないぞよ、と。

その頃聖人はシエナの名高い眼科のお医者さんの許にお居で、御座いました、絶えず基督様の御苦難をお想ひになつてお泣きで御座いましたものですから、とうとうあは



れにも殆どお眼がね見ねにならなくなられたので御座います。

聖人は今は全くお眼をお失ひになりましたもので御座いますから、せめてもの靈的生涯の恩恵をお受けになりました地に行つて慰めてみたいと、その兄弟たちに守られてアシシオに伴れ行かれたいものだとお願いになりました。聖人は嚴密な看護の下にアシシオから天使の皇后聖マリア天主堂へお運ばれになりました。

聖人が御病苦に對しての御耐忍と申すものは大變なもの

で御座いまして、病苦を我が親愛な姉妹とお呼びになりました。ある時病苦が常に勝つて烈しう御座いましたから、一人の修道者が聖人に向つて、我が兄弟よ、主に今少しく優しうに、あなたを待遇して下さるやうにお禱りなさいませ、主のおん手は餘りに重くあなたの上に置かれてあるやうで御座いますから、と申されますと、赫と聖人はお怒りになりました、我が兄弟よ、我が若しお前の朴直なのを知らなかつたら私は決してお前が私に近づくのをもさへ許さなかつたらう、と申されて、身を地に投げつけて申されます



には、あゝ神なる父よ、感謝いたします。ごうぞ私わたくしの此この苦痛くつうを更に百倍ばいばいの苦痛くつうにして下さいませ。御身みこころの御意ごいの成なりますのを見みますことは、私わたくしの此この世よに於おいての一番いちばんの慰藉なぐさで御座ございます、と。

聖人せいじんは修道者しゅうどうしやに、主しゆの御苦難ごくなんの御事蹟ごじせきをお讀よましめになりまして申まをされますには、我わが愛あいする主しゆが幾度いくどと無く幾度いくどと無く、私わたしらの爲ためにお受うけになつた御苦難ごくなんを聽まく程ほど私わたしに大おほまな愉快ゆくわいは無い、と。

聖人せいじんの將まさに最後さいごの息いきをひきとらうとなさいます時ときに當あたり

まして、院長いんちやうは能よくく聖人せいじんが清貧せいひんを愛あいされるお心こころを知しつて居をられたもので御座ございますから、古ふるい衣服きふと繩なはと贈物おくりものとなさいまして申まをされますには、兄弟きやうだいよ、私わたしは神かみの愛あいの爲ために此この些少せうせうな贈物おくりものをします、ごうか聖たうごい柔順じうじゆんな精神せいしんを以もつて受うけ納おさめて下さい、と。聖人せいじんは大變たいへんお喜よろこびになりまして快こころよくお戴いたさになりました、そして聖せいじん貧ひんに對たいする大おほまな愛あいを最後さいごにお示しめしになり、了のちして後のち、身みを地ちに投なげつけて、死後じご暫しば時は此このままにして棄すて置おけよとお命めいじになりまして。

もう大分たいぶん月つきも西にしに傾かたむいて、虫むしの聲こゑさへ嘎かれ初はじめましたか



ら、今夜は此の位にいたして置かしまして、また次ぎの日に  
 残りの少しをお話しすることにはいたしませう。なに、夜が  
 更けても關はんと仰有るので御座いますか。月を踏んでお  
 歸りになるのも亦一興で御座いますねえ、では續いてお話  
 しいたしませう。

肉よりはあらで

御身は愛よりぞ生れ給ひぬ。

世の人を罪の淵より救はめと

御身ころ人の身を受けし愛なれ。

これは聖人がお作りになりました詩の一節で御座います。

聖人は、神の愛をお了解なさいましたお方は御座いませ  
 ん。

聖人は聖い歡喜をお感じなさいました外は、もう沈黙と

冥想にばかり凝乎と耽ておるものが常でゐられました。

聖人は痛酷な痛悔に充たされたお方では御座いましたが、

あの皮膚の下を流れてゐます熱い血潮の中には快活な、

明るい性格の血が一つばい流れてをつたお方であつたので

御座いまして、お喜でになる時は全く幼児の様に御愉快な



微笑を以て、あのお優しいお顔が包まれて了ふのが常だつたので御座いますよ。その微笑に包まれたお顔は、恰度あの露に潤れた薔薇の花が新らしく咲く廣野の叢中から、眼醒めた雲雀が舞ひ上つて、ねさめの一歌を歌ふ曉の天へ今しがた東の山の端へ見えて、颯々黄金の眩い光を投げたあの生々した、新らしい、愉快な太陽、それの様に美しく愉快なので御座いました。なに、何も私が實際に見たのは御座いせんが、斯うも想像されますし、それに又、聖人の傳記を物なさいましたお一人も、ちやうど私が申しま

したやうな言葉に克く似寄つたことを申されて居ります。聖人のお心は、彼の透きとほつた眞白い水晶の様に御純潔で御座いました。亦その詩も奇麗なもので御座いました。私どもが眼に見、心で見ても、さほど詩になりさうにもないもので御座いまして、聖人のお眼とお心に一度映りますと、潑刺として生命あるものに化せられて了ふので御座いました、熱烈な愛に充ちた心、博愛の心、自己を犠牲とする精神、それらは皆、神と基督様に對する非常な愛から生れ出たもので御座いまして、基督様は聖人にとつては



切萬事さいばんじであつたので御座ございます。眼めに、口くちに、心こころに基督様きりすとさまがゐられたので御座ございました。ろして聖人せいじんが聖母マリア様せいぼを御崇拜ごすうはいになりますことは大變たいへんなもので御座ございまして、カレノといふ人かたの申まをされましたお言葉ことばに據よりますと、聖人せいじんが聖母マリア様せいぼを見ることは全く自分まうたじぶんのお母さんを見るやうであつて、何處迄どこまで聖母マリア様せいぼに對たいして愛あいと尊敬そんけいを盡つくされるのか、殆ど際限ほとんが無い、聖母マリア様せいぼは吾々人間われぐにんげんに神かみを兄弟たいとなされたものであるとは、いつも聖人せいじんの申まをされたお言葉ことばであつた、と御座ございます。こんなに聖人せいじんは聖母マリア様せいぼを

お愛あいしなされたので御座ございました。ある時とき、修道者しうたうしやたちが食卓しょくたくを圍かこんで種々いんくな事ことを話し合あつてゐられますうちに、誰たれか、聖母マリア様せいぼが基督様きりすとさまをお産うみになつた時は實じつに貧乏ひんぱんなものだつた、と云いつたのをお聞ききになりますと、はや聖人せいじんのお眼めからは溢あふり熱あつい泪なみだが珊々はらと流たれ落ちました。それ位くらゐに聖人せいじんは聖母マリア様せいぼをお愛あいしになつたので御座ございます。

クリスマスの夜の、あの至いたる所ところの教會けうかいの聖堂みだうで見受みうけます美しくい馬舎飾ひまやかざりは、あれは聖人せいじんが世界の何人なにびとにも卒先そつせんし



てなさいましたことが今に傳はつてをるので御座いまして  
 オノリウス第三世陛下から特別な許可をお受けになりました  
 たのも聖人なので御座います。私どもが一年たゞ一度のク  
 リスマスの夜、聖堂の馬舎飾の前に跪きますならば、わ  
 たしどもは心から主耶穌基督様のおん恵が、如何に有難い  
 かを沁々と感じるでは御座いせんか。謙遜なされて金殿  
 玉樓の代りに馬舎の中にお生れなさいました基督様の聖さ  
 有難さを、斯う迄私どもに遺憾無くお知らせ下さいました  
 方は何人で御座いませうか、それは申しあげざる迄も無く、

實にアシオの聖フランスコ、其の方なので御座います。  
 面白いお話が一つ御座います、ある年のクリスマスが運悪  
 く金曜日に當りました、そこで修道者たちの中には、斯う  
 いふ大祝日でも金曜日だから節慾しなければならぬだら  
 うといふ説を唱へ出す方が御座いました。するとモリコと  
 いふ修道者の申されますには、絶対に節慾しなければなら  
 ない、決して特別の許可なんかあり得べきものではないと  
 強く主張なさいました。所が聖人には特別の御意見がおあ  
 りになりまして、こんな絶大な事柄を紀念する時にあつ



て、どうして小齋なんかといふことを考へてゐられるものか、とお叫びになつたさうで御座います。

聖ボナベンツラの申されましたお言葉に據りますと、熱烈を極めた愛を以て、嬰兒主耶穌基督様の御降誕を記念なさる爲、グレシオの氏を勵ます爲に、聖人が出来るだけ莊嚴に爲やうと御決意なさいましたのは、聖人が父のお側に  
お歸りになります三年前であつたさうで御座います。

聖人の此の希望が許されますと、聖人は早速聖人を非常に愛敬してゐられるジョンと云ふ貴族の所へお使ひをお出

しになりました、どうですか、私と貴君と一緒に降誕祭を  
挙げたいと思ふが、若し知して下さるなら、一つ貴殿の  
所有の森の一隅を貸しては下さるまいか、若し有るなら洞  
窟を選択して、ろこへ秣と秣槽を入れて、なるべくペトレ  
ヘムの馬舎に似奇つたものを作へて、ろこへ牛と驢馬を置  
いて戴きたい。實は此の肉眼を以て目前に神の御一人子基  
督様の御誕生と御清貧を見るやうに記念したいので、とお  
願ひになりました。ジョン貴族は、ろれは善い考案だから  
早速承知した、就ては貴君の思はく通りにするからとの返



辭を使ひの者に托してお歸しになりました。

其の夜、夜半の彌撒は莊嚴寂寞な森中の眞只中で擧げられました。秣槽の前に立たれました聖人は、感迫つて涙を流され、お顔は喜悅に輝やいたので御坐いました。

此の森林を訪問いたしました群衆は、思ひくゝに非常な熱心を以て此の秣桶の秣を有ち歸つたさうで御坐います。此の秣は奇蹟の様に病氣を癒したといふ口碑を有つて居ります。聖人が天に歸られましたから五年目に、聖人の御一生を紀念する爲に其處に聖堂が建てられました。

さて、クリスマスと聖人のことに就きましては此の位にいたして置きまして、御臨終から以後のことを少しくお話しいたしませう。

聖人御臨終の御時は、多くの弟子達をお集めになりました。忍耐せよ、清貧であれ、羅馬聖公會に忠實従順であらねばならないとお教しへになりました。そして聖人を取り繞る弟子達の上に手を十字架の形にお延ばしになり、十字架にお架りになりました。キ耶穌基督様の御名に縁つて彼らを祝されて申されますには、では我が子等よ、主を畏



敬ふて常に畏敬裡に居れよ、そして耐ゆ忍べ、誘惑と艱難  
 がお前たちに來ても最後迄忍ぶ者は幸福である。私は今神  
 の御もとへ行く。行くにあつて其の聖寵をお前たちも皆  
 受けてくれることを私は望む、と。斯う申されました後、  
 約翰傳の第一章を其の弟子にお讀ましになり、のち自らは  
 詩篇の第四百四十一篇をお讀みになりました、汝我れに酬む  
 給ふ迄正義者我れを待てり、の句で息をおひきとりになり  
 ました。總ての之れらの不思議なことが聖人の上に悉皆成  
 りますと直ぐ、聖人の聖い靈魂は自由になつて聖なる榮光

の深淵に吸收されお終りになりました。同時代にゐられま  
 した聖ボナベンツラは、澤山の修道者は天に現れ出た煌々  
 する星の様に、白雲の上に昇り行く聖人の靈魂を見た、と  
 申されました。神の忠實な僕は此の様な偉大な死を以て天  
 にゐられます父のお側へお歸りになりました。時に恰度千  
 二百二十六年十月の四日で御坐いまして、愛心深い聖人御  
 在世の年月は恰度四十五年、神の忠實な僕とおなりなさい  
 ましてから二十年、會を御創立なさいましてから十八年た  
 ちました、聖人が世をお去りになります時ラヴワロの院長



アウグスチヌはお悶えになつて、父よ、どうぞ私の爲に待つて下さい、私も御一緒に参りませう、とお叫びになりました。その時同じ席にある人が何人に向つて其様に聲高くお叫びになりますかと問はれますと、なにお前たちは父フランシスコが天に昇つて行かれるのを見ないのか、と申されました。恰度此の時聖人はアシシオの司教様にお現れになりました、見られよ、私は今此の世を後にして天に参ります、とお告げになりました。

さて聖人の不思議な釘の痕跡は眞實で御坐いました、脇

腹の痕は主のおん脇腹の御創痕と同じで御坐いました。釘は鐵の様に黒う御坐いました、脇腹の痕は赤くて美しい薔薇の花に似てをりました。おからだは性來と御持病の爲に餘りお白うは御坐いませんでした、昇天なさいます時は日榮いばかりに白う、そのお手足は小兒の其れの様にかくて灣曲してをりました。

聖人が御逝去なすつたその噂が傳はりますと、アシシオの市民はせめてもの創痕を見たり、又は聖い亡き骸に觸れて心と靈の渴きを癒さうと、天使の元后聖マリア天主堂



へ群集ぐんしゅういたりました。翌朝よくてうたくさん澤山ひとの人が手に手に松火たいまつ、木の枝えだを持ち、聖歌せいカと頌徳しやうとくの歌うたを歌うたつて聖たよい亡なき骸がらをアシシオへ送おくりました。送葬くわくりにの列れつが聖せいクララの住すんでをられます聖せいダミアンてんしゆたう天主堂まへの前まへを通とほりますと、聖たよい亡なき骸がらは童貞女どうていぢよと其その姉妹しまいに示しめされました。聖せいクララは彼かの奇怪きくわいな釘くぎの一箇ひとつを抜ぬかうとお試こころみになりましたが出来できませんでしたから、脇腹わきばらから滲にじみ出るでる血ちを白しろい麻布あさぎぬへお涵したしになりました。亡なき骸がらは聖人せいじんが洗禮バプテスマをお受うけになり、最初さいしよの御説教所ごせつけうじよであり、最後おしまひには其その屍骨しかほねを葬ほうる所ところになりました、聖せいヤヨル



十字架にお  
架りなさい  
ました基督  
様さまに對する  
聖人せいじんの愛あい……  
(一〇三頁)



や天主堂へ、あるだけの敬意を以てお運ばれになりました。  
聖人はコルレ、デンフェルノ（地獄の丘）へ葬られたいと  
いふことをお願ひになりました。けれどアシヨオの市氏は  
此事を喜びませず、先づ彼の不名誉な地に聖人の徳行を記  
した碑を建て、そして後に之れを許しました。  
幾多の奇蹟が聖人の中介に據つて成されましたから、教  
皇グレゴリオ第九世陛下は千二百二十八年の六月十六日を  
以て、フランシスコを聖人の列にお加へになりました。  
今、私は神の代理者である教皇レオ第十三世陛下の宣ひ



になりましたお言葉を述べて、此の物語を終らうと存じます。

人の口から出る讚美の聲よりも天使の歌に相應しい此の奇蹟は、如何に聖人の人格の偉大なるか、如何に當代の人を基督の道に立ち歸らさそうとて、神が此の人をお選びになつたかと云ふことを容易に知ることが出来るのである。また此の一人からして如何に文明の國民に限りの無い利益が興へられたか、といふことも容易に知ることが出来るのである。又實に聖人の優秀にして璧の様な基督教的精神は

一切の時、如何な場所でも極めて克く調和した、たれでもフランシスコの律令は此の我れらの現代に莫大な功利あるものであることを疑ふものは無い、といふことを朕は信じる——これが教皇レオ第十三世陛下のお言葉で御坐います。——わゝ爾うで御坐いますか、では、また教會でお目にかゝりませう、今夜は幸福なお夢を御らんなさいまし。さようなら。

(終)



頁 一 一六 四一 四二 四三 四八 五四

正 行 二 七 三 四 九 七 一

誤

誤

伊太利イタリ

御喘楚

誠實

杖と

熱誠

カノノリー

絶對を

正

伊太利イタリ

御苦楚

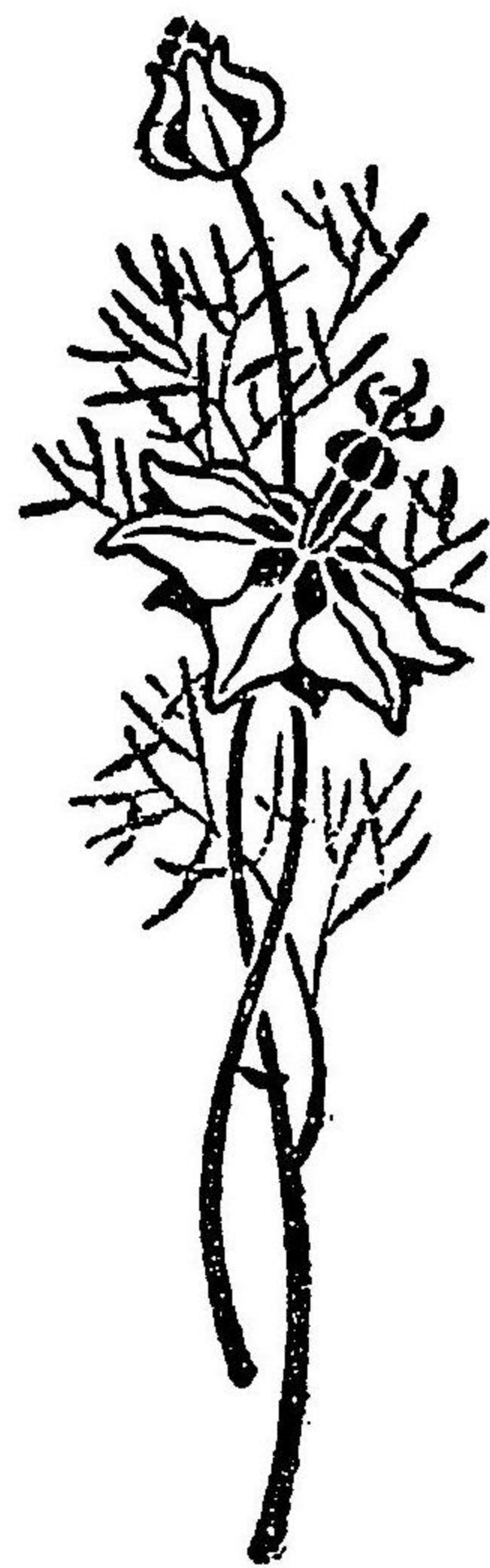
誠實

杖を

熱誠

カノノリー

絶對に





明治四十四年十二月廿二日印刷  
明治四十四年十二月廿五日發行

北海道札幌區十五條石狩街道天主教會

譯者兼發行者 トウ ベ ソ セ ス ラ オ

大阪市東區左官町五二四番地

印刷者 杉 山 國 司

全 所

印刷所 聖若瑟教育院活版部

全 所

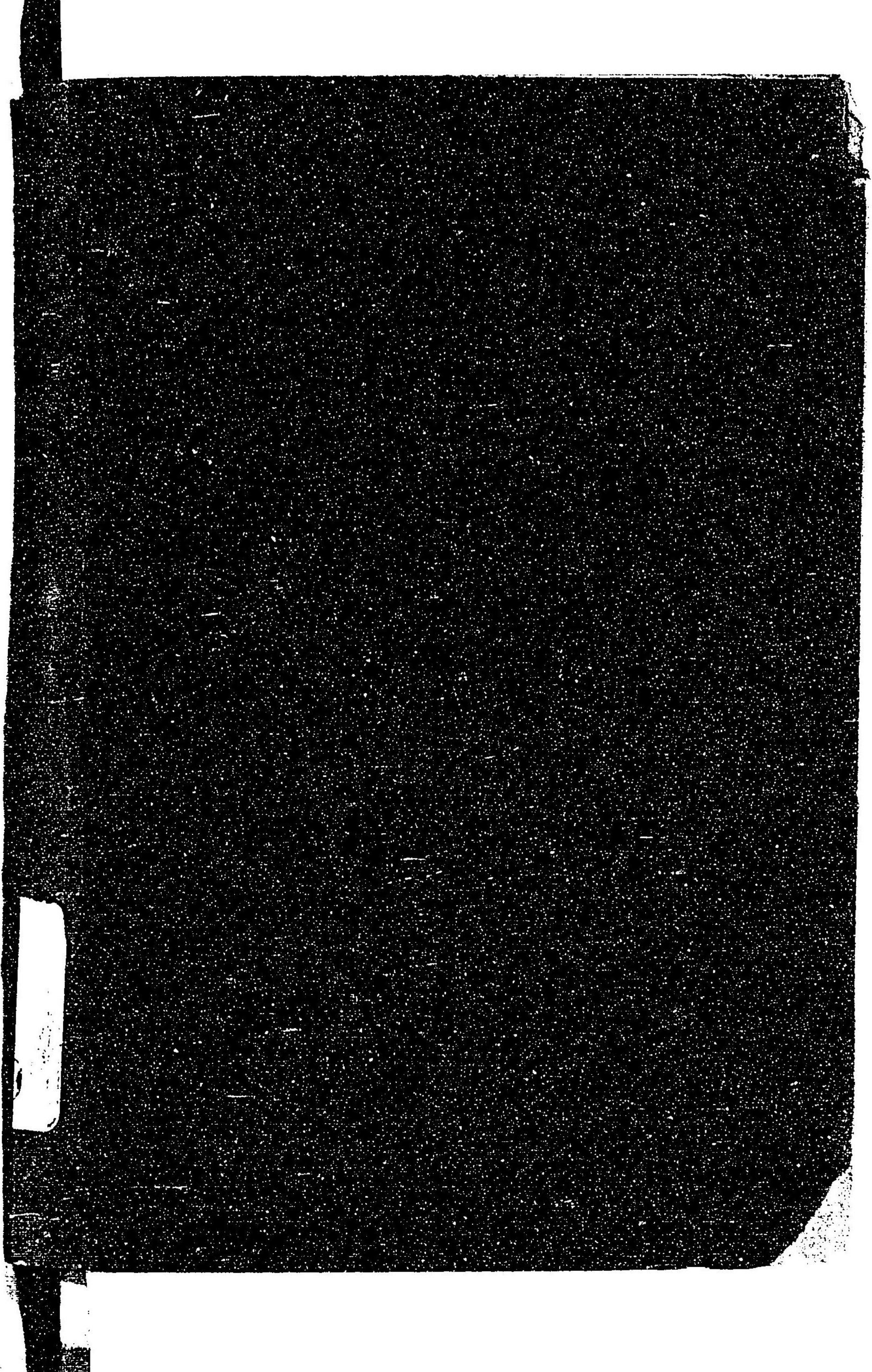
發行所 聖若瑟教育院



266

785







020211-000-3

特62-89

アシジオの聖フランシスコ略伝

ベンセスラオ/訳

図版

M44

ABI-0010

